



# 町内会・自治会の基本は コミュニケーション、そして体制づくり

安達廣美会長 町田市町内会・自治会連合会  
小山地区連合会／多摩境町内会

The Machibito — Chikiri Ikinu

現在、町田市にある町内会・自治会は全部で311。加入率は平均約54%で、約10万世帯が加入していることになる。町内会・自治会は市内10地区でそれぞれ地区連合会を構成し、それらを統括するものが、町田市町内会・自治会連合会―通称「市連」で、今年60周年を迎える。その会長の安達廣美氏は、現在、市連、小山地区連合会、多摩境町内会全ての会長を務め、多忙な毎日を送っている。

30年前に町田市に引越してきた安達会長が、町内会に携わることになったのは2011年の

ことだった。「多摩境町内会の会長さんがやってきて、町内会を手伝ってくれないか、と頼まれて。最初は断ったんですが、3カ月後にまた来られたんです。とても困っている様子だったので、副会長として参加するようになったのですが、旧態依然としてコミュニケーションも取れないなければ会として全く機能していない。これは何とかしなければ、と思いました。」

翌年、会長に就任すると、真っ先に体制の見直しを行った。町内会を構成する16班を4ブロックに分け、会合に班長は必ず参加する仕組みを作り、様々な課題にも真剣

に向き合った。反発もたくさんあったが、思い切ってやらなければ町内会の将来はない、と断行。次第に町内会はうまく連携し始め、今では1月のどんど焼き、8月の盆踊り、9月の防災訓練、11月のファミリーフェスタなど、どの事業も活況を呈している。

多摩境町内会の近隣16町内会・自治会が集まった「小山地区連合会」の会長になったのはそれから3年後のことだった。そこでも、まず体制の見直しに着手した。町内会同士の繋がりを深め、情報共有を徹底し、エリア内の課題解決を突き進めた。その結果、11月の

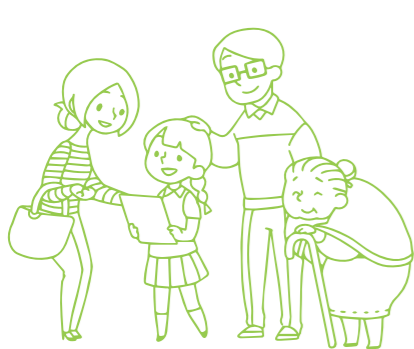
「ふれあいウォーキング」は800人が参加する一大イベントとなった。3年前から始めたハロウィンの企画には子どもも参加も多く、地域ぐるみで子育てしていることが実感できているという。

2017年に就任した市連の会長としては、東京都や町田市内の様々な会合に出席したり、市内10地区の連合会長のまとめ役として町田市へ町内会の意見を集約して調整する役割も果たす。これらの活動は時間的にも決して楽ではな

いが、まちを良くしたいという強い想いと、責任感がある。

「町内会に加入するメリットは人間関係のふれあいです。古い伝統と新しい価値観をどう交流させるか。―それが解決できたら他の地区と情報共有する。それぞれの地区でカラーはあるけれど、目指していることは一緒です。自分たちが暮らすこのまちを良くしたい、それに尽きます。まちの将来、子どもたちの未来のためにも、町内会・自治会をもっと活発にしなければ。」

町内会・自治会で市民が連携し、コミュニケーションが大きな力となれば、まちは活気づく。安達会長の想いが町内会・自治会の活動を通して広がっていくれば、町田はもっと住みやすくなるはずだ。



A B C. 11月に行われる『ふれあいウォーキング』。町内2カ所のスタート地点からゴールの小山内裏公園を目指す。ハロウィンイベントは子どもに大人気 D. 昨年5月に行われた市連の定期総会で会長に就任した E. 経営者としての経験から、組織づくりやコミュニケーションの構築も得意で、人望も厚い安達会長

